

平成 20 年度環境技術実証事業検討会ヒートアイランド対策技術分野

(オフィス、住宅等から発生する人工排熱低減技術)

ワーキンググループ会合 (第 2 回)

議事要旨

1. 日時：平成 21 年 3 月 4 日 (水) 16:00～17:25
2. 場所：鉄鋼会館 8 階 812 号室
3. 議題
 - (1) 地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システムについて
 - ①小WGでの検討経緯
 - ②実証試験要領(案)
 - (2) IT 機器等グリーン化技術について
 - ①小WGでの検討経緯
 - ②実証試験要領(案)
 - ③実証結果の表示について
 - (3) 今後の検討スケジュールについて
 - (4) その他
4. 出席検討員：佐土原聡(座長)、足永靖信、大岡龍三、高原明彦、森川泰成
欠席検討員：笠松正広、村田俊之
小WG委員：藤井光(地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システム小WG)
市川晴久(IT機器等グリーン化技術小WG)
5. 配布資料
 - 資料 1 検討経緯
 - 資料 2 ヒートアイランド対策技術(オフィス、住宅等から発生する人工排熱低減技術
地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システム技術) 実証試験要領(案)
 - 資料 3 ヒートアイランド対策技術(オフィス、住宅等から発生する人工排熱低減技術
IT 機器等グリーン化技術) 実証試験要領(案)
 - 資料 4 実証結果の表示について
 - 資料 5 今後の検討スケジュールについて
 - 参考資料 1 サーマルレスポンス試験に関する資料
 - 参考資料 2 測定ツールに関する資料

6. 議事

会議は公開で行われた。

(1) 地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システムについて

- ・ 事務局から資料 1、資料 2 にしたがって、小 WG での議論の経緯と実証試験要領案について説明があった。
- ・ 小 WG で座長を務めた藤井小 WG 検討員から、評価項目は、十分でかつ実施者に対して負担にならない内容であるとの意見があった。
- ・ ヒートアイランド抑制効果をより適切に評価する実証方法の検討が今後必要との意見があり、来年度の実証では、実証項目として「夏季のみの平均 COP」を加えることが確認された。

(2) IT 機器等グリーン化技術について

- ・ 事務局から資料 1、資料 3、資料 4 にしたがって、小 WG での議論の経緯と実証試験要領案について説明があった。
- ・ 小 WG で座長を務めた市川小 WG 検討員から、実証対象技術等に関して色々な限定があるが、結果を外部の人にも理解してもらおうという趣旨から、当面カテゴリー A（来年度はそのうちのサーバー）に絞って進めていくことが妥当であるとの意見があった。
- ・ 今後の技術の変化を鑑み、カテゴリー A でも、将来的には冷却効率を実証することを想定しておく必要があるとの意見があった。
- ・ 実証機関が立ち会わずに実証を行う場合は、適切な試験を行ったことを証明する証拠等、立ち会わない場合に必要とされる条件を検討する必要があるとの意見があった。
- ・ ラベルの表示については、他分野でも議論が出ているので、大枠は親委員会で検討し、IT 機器等グリーン化技術における表示方法に関しては、来年以降の WG で検討していくことが確認された。

(3) 今後の検討スケジュールについて

- ・ 事務局より資料 5 に基づき、今後の検討スケジュールについて説明がされた。

(4) その他

- ・ 特に発言なし。

(文責：環境省水・大気環境局環境管理技術室 速報のため事後修正の可能性あり)